

佳作
(高校部門)

東京都立豊多摩高等学校

1年

浪花 ななわ

小槇 こまぎ

「そんな顔して、ご飯食べるんだね」

友人

高校に入学して、初めての席替えをした頃のことだ。私は、黒板のほうを向いて黙食をしていた。近くの席になった子が、昼食を食べ終わって騒めき始めた教室で、声をかけてくれた。

「そんな顔して、ご飯食べるんだね」

急なことに驚いて、少し不安になる。

「変だった？」

「ううん、おいしそうに食べるんだなって思って」

気恥ずかしくて、どこか懐かしかった。私は“美味しそうに食べるね”

と、今まで多くの人に言われていた。私は食べることが好きで、表情に気持ちが悪く出してしまうからだ。

ふと、友人がどんな顔をするのか知らない事に気がつく。マスクを外し向かい合ってご飯を食べてお喋りをするのも無いまま、数ヶ月を過ごしている。